

敬愛短大附属幼稚園だより 9月号

今年の子どもたちの夏休みは例年になく短いものとなりましたが、お子さんたちはどのように過ごされたでしょうか。普段であれば家族旅行やキャンプ等で楽しいたくさん思い出や体験ができたことと思いますが、なかなかそうはいかない夏休みであったことでしょう。

幼稚園の先生方も同様で、近隣でのコロナウイルス感染の情報を聞いたたびにゾッとする思いを常に感じながら過ごしました。自分だけは感染しないということはなく、対策は万全と思っていても感染してしまう現状から、毎日の検温や自身の動向の記録をスマホにデータ化するなど、通常の防止策に加え、それぞれの方法でも取り組んで来ました。世界中が揺れ動き出してすでに半年近くになりますが、一向に沈静化の方向が見えてこないため不安が増大します。

また、夏休み中には水が関連した事故が千葉市近郊の海や他県の川や海で禁止事項を守らなかったために生じた悲しい出来事として多発しました。

幼稚園でも短い夏休みではありましたが、自然環境や保育関連の器具の整備等、汗を流しながら 9 月からの幼稚園での活動に備えて全職員で取り組みました。

1 環境は人をつくる

環境と一口に言っても自然環境もあれば人的な環境もありますが、幼稚園では子どもたちのために厳しく自分を見つめながら、更なる教育力向上のために進んで様々な研修に取り組んでいます。どこまで行っても終わりはありませんが、より良い教育環境のために自分を磨く努力をしています。このことは園長として内々を褒めることになってしまいましたが、敬愛幼稚園の先生や職員の方々の努力に頭が下がる思いですし、自慢の先生方です。

子どもたちには大事な幼児期にできるだけ多くの体験をさせ、その中で自ら感じたことを自分の引き出しの中に収納させたいと思います。感じ方はそれぞれで良いのです。こうでなくてはならないという大人の考え方でなく、子どもたちが感じたそのことを大切にし、それを基礎にどう成長させられるかが私たちには問われています。だから自分の歩みを止めることはありません。

2 若者は未来を創造する

一昨日、我が家に小中学校の国語・理科・体育の先生方が集まり（全員そのころの学校からすでに異動しています）教育談義に花を咲かせました。話題はとても幅広く、教育機関としての話題から個人の悩みまで実に様々でした。たまたま、卒業させた生徒が今年の高校野球千葉県大会の試合に 3 名もレギュラーで出場し、チバテレビで放送されました。

先生方は自分が担任をしていた当時のことを思い出しながら、子どもたちの成長を素直に喜んでいました。教えた子どもたちがその後どうなったかを先生方はいつも心配しています。子どもたちが活躍する姿が教職に就いた者としてなにより嬉しかったはずです。

当時、子どもたちが何を学んだかではなく、それをその後の人生にどう活用することができたかが大切です。

目先の利害にとらわれたり、自分がうまくいかないことを他人のせい転嫁したりするのではなく、自分や周囲をよく見つめ、困難に遭遇したときにどうそのことを解決できるかという視点で学びの質を高め、先を見て動くかが重要です。年配者は過去の話が中心になりがちですが、若者は未来の話ができます。

（園長 杉山清志）